

平成 29 年度サービス第三者評価（公益社団法人 全国有料老人ホーム協会）

法人名		ミモザ株式会社		ホーム名		ミモザ横濱紫陽花苑		ID	2929
		評価機関	ケアシステムズ			評価日	30年1月18日		
スケールNo.	自己評価	機関評価	スケールNo.	自己評価	機関評価	スケールNo.	自己評価	機関評価	
1.1.1	B	B	2.3.3	B	B	6.1.2	A	A	
1.1.2	B	B	2.3.4	C	C	6.1.3	A	A	
1.1.3	A	A	2.3.5	A	A	6.2.1	A	A	
1.1.4	B	B	2.3.6	C	B	6.2.2	A	A	
1.2.1	B	B	2.3.7	C	C	6.2.3	B	B	
1.2.2	A	A	2.3.8	B	B	6.2.4	A	A	
1.2.3	B	A	2.3.9	A	A	6.2.5	A	A	
1.3.1	B	B	2.3.10	A	A	6.2.6	A	A	
1.3.2	A	A	2.3.11	A	A	6.2.7	A	A	
1.3.3	A	A	2.4.1	A	A	6.2.8	A	B	
1.4.1	A	A	2.4.2	B	B	6.2.9	A	A	
1.4.2	A	A	2.4.3	A	A	6.3.1	B	B	
1.4.3	A	A	2.4.4	A	A	6.3.2	B	B	
1.4.4	B	B	2.4.5	A	A	6.3.3	A	A	
1.4.5	A	A	2.4.6	A	A	7.1.1	A	A	
1.4.6	A	A	3.1.1	A	A	7.1.2	A	A	
1.4.7	A	A	3.1.2	A	A	7.2.1	A	A	
1.4.8	B	B	3.1.3	A	A	7.3.1	B	B	
1.5.1	A	A	3.1.4	A	A	7.3.2	A	A	
1.5.2	C	B	3.1.5	非該当	非該当	7.3.3	A	A	
1.5.3	A	A	3.1.6	C	C	7.3.4	A	A	
2.1.1	B	B	3.1.7	A	A	7.4.1	A	A	
2.1.2	A	A	4.1.1	A	A	7.4.2	A	A	
2.2.1	A	A	4.1.2	A	A	7.4.3	A	A	
2.2.2	A	A	4.1.3	A	A	7.4.4	B	B	
2.2.3	A	A	4.1.4	A	A	7.4.5	A	A	
2.2.4	A	A	4.2.1	C	C	7.5.1	A	A	
2.2.5	B	B	4.2.2	C	B	7.5.2	A	A	
2.2.6	A	A	5.1.1	A	C	7.5.3	A	A	
2.2.7	A	A	5.1.2	A	A	7.5.4	A	B	
2.2.8	A	A	5.2.1	A	B	7.5.5	A	A	
2.2.9	A	A	5.2.2	A	A	7.5.6	B	B	
2.2.10	A	A	5.2.3	A	A	7.5.7	A	B	
2.2.11	A	A	5.2.4	A	A	7.6.1	A	A	
2.3.1	A	A	5.2.5	A	A	7.6.2	A	A	
2.3.2	A	A	6.1.1	A	A	7.6.3	A	A	

評価機関所見

◆優れた取り組みと思われる点	
スケルNo.	所 見
1-4-7	施設では、サービスの質向上のために職員研修に力を入れており、無資格の採用者には会社負担で初任者研修を受講できる仕組みもある。職員が外部研修に参加する場合は、出勤と同等の扱い、手当等を支給する仕組みが構築されている。
2-2-2	入居希望者の体験入居を積極的に行っており、実際に入居されている入居者と同じフロアの一般入居室において体験入居を行い、体験入居期間に関しても入居希望者が納得いくまで体験入居ができるように、柔軟に対応している。
7-1-1	24時間看護師と介護職員が常駐しており、夜間も看護師と介護職員による看護体制をとり、地元の医療機関と提携し訪問診療も行っている。3階建ての建物を介護度別に利用することで、利用者が自分らしく過ごせるように配慮されている。入居が難しいことが多い、胃ろう・インシュリン投与・たん吸引・ストーマ・終末期の看取りなどの利用者も受け入れており、医療機関と連携して入居者の心身状況に合わせて、適切な見守りができるように配慮している。
7-4-1	全室個室になっており、各部屋には車いすでも利用しやすいように配慮された洗面所とトイレが完備されている。排泄の際に介助を必要とする入居者でも、夜間も日中と同様に排泄時に介護職員が付き添い、トイレでの排泄を支援している。同様に、おむつの利用者も定時交換ではなく本人からの依頼があれば、夜間でも個別に対応している。現在ポータブルトイレを使用している入居者は居ないということが、事業所の排泄への取り組みの結果と思われる。排泄の自立を維持するためにも、一人ひとりの尊厳を尊重した施設の姿勢を評価したい。

◆さらに取り組むことで、より質の向上が可能と考えられる点	
スケルNo.	所 見
1-3-1	必要な情報は、社内パソコンシステムを利用して共有され、必要な書類は、法人本部にてアップデートを行い、いつでも閲覧・印刷することが可能となっている。しかしながら、事業所において閲覧・印刷したものを事業所職員に対して周知・理解させる仕組みがやや弱いことから、検討が望まれる。
2-3-4	入居者、家族の希望や意見は都度口頭にて確認しているものの、意見箱の設置や定期的な満足度アンケートはまだ行っていない。意見箱の設置、定期的なアンケート、ホームページ上での意見徴収など仕組みを構築し、現場にフィードバックすることでさらなるサービスの質の向上が可能であると考えられる。
6-3-1	職員研修として年間計画をたて、その計画に従い順次研修を行っている。研修内容は「誤嚥や窒息の対応」「高齢者虐待・身体拘束排除」「接遇」「介護マニュアル」「おむつ」など介護職員の介護技術の向上を目指している。ただし、多くの研修を行っていることは確認できたが、研修は全職員が一緒に受けられない環境であることへの配慮や、職員の経験や能力への配慮も必要とされる。更に、研修を受けた職員の牽引による職員間の研修内容の共有や、同じ研修を複数回行うことにより全職員が研修を受けるなどの知識の標準化なども期待したい。更に、研修内容を共有することにより、施設の改善点の問題提起や、環境整備などに活かす取り組みに発展させる試みも期待したい。
6-2-8	利用者の体調不良時や医師との連携、確認事項がある時には随時家族（身元引受人）に電話で連絡しており、その際には入居者の様子を伝えることに努めている。また、家族等が面会に来苑した際にも、できるだけ家族に直接利用者の日頃の様子を伝えることにしている。しかしながら、定期的な家族への連絡を行っていないことが憂慮される。面会が難しい家族に定期的に入居者の様子を伝えることで、体調の変化などを共有することも入居者支援となることを考慮し、取り組みを検討されたい。更に、家族が施設に来苑する機会として生かせるような行事などの工夫も望みたい。